

26

水戸工業高等学校 3年 武石 龍樹

繋ぐ

日本の文化、技術の伝承と年齢、性別、障がい、
人種を超えて交流する未来のふるさと、田舎型
ダイバーシティ社会の実現へ





日本の文化、技術の継承と年齢、性別、障がい、人種を越えて交流する 未来のふるさと、田舎型ダイバーシティ社会の実現へ

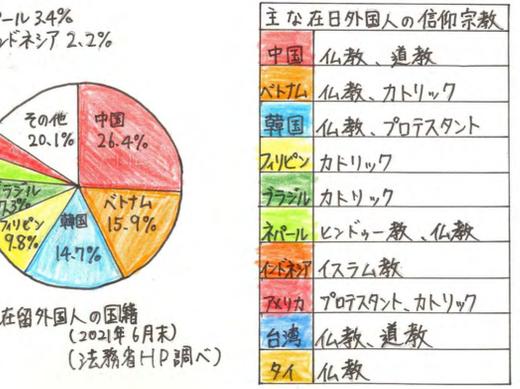


現在日本では少子高齢化や都市部への人口流出により地方の過疎化が進み、大切な日本古来の文化や技術が危険に晒されています。改善するためには、日本人だけでなく現在日本に約33万人いる外国人技能実習生や外国人永住者約83万人の力を合わせ外国人とともに古き文化を守り、新しい考えが隔合したまちを創りたいと考えました。



(外国人技能実習生、永住者数... 法務省HP調べ)
舞台は茨城県の大子町
日本三名瀑の袋田の滝など自然豊かしかし人口約15000人の小さな町です。
(人口... 茨城県HP調べ)

この町で産出される漆は「大子漆」と呼ばれています。産出量は岩手県に次ぐ第2位です。しかし国産の漆は市場の1割程度で安価な中国産の漆が90%を占めていて、さらに職人の高齢化により継承が問題になっています。
(大子町HP調べ)

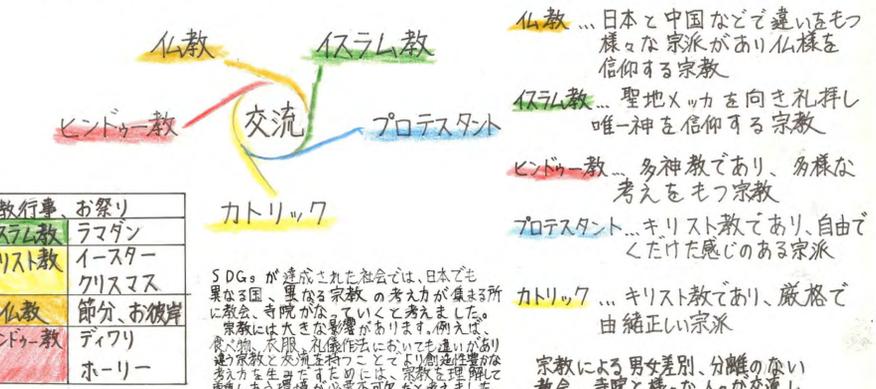


2 木の温もりを感じる教会、寺院

大子町産の木材で温かさのある交流の場所
教会、寺院は1つの場所に集まる、新しい社会へ

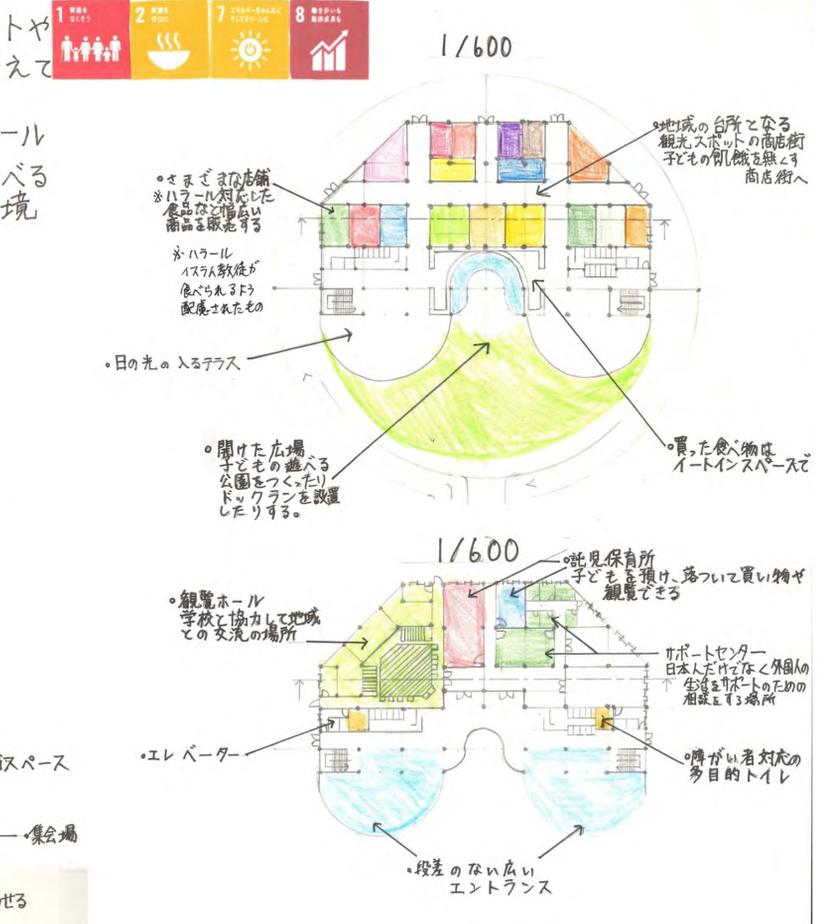
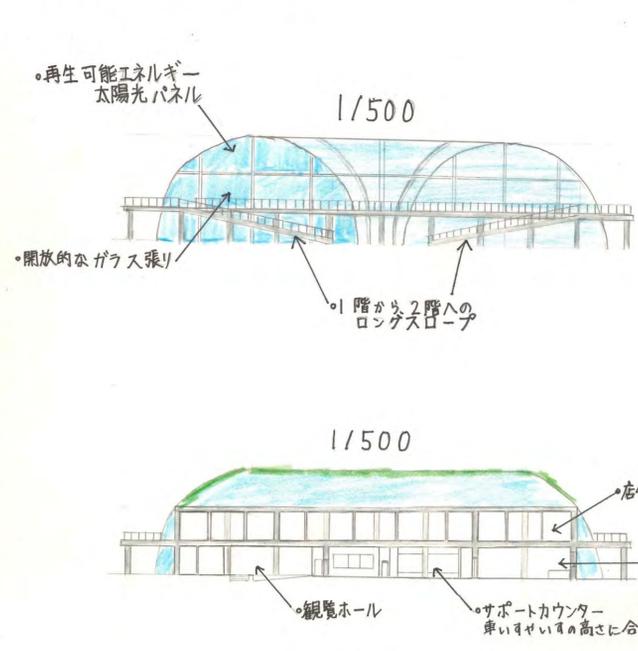


外国人への配慮が必要なものの中に宗教があり、宗教と生活が密着している人々は多く、生活のサポートの一環です。SDGsを達成し宗教に対する差別、偏見のない環境では、教会、寺院は、交流の場所になると考えました。



1 まちの中心 地域のサポート、コミュニケーションセンター ~絆~

この建物は日本人だけでなく外国人のサポートや地域のコミュニティーの中心となる場所になると考えています。
1Fはサポートセンターや託児所、観覧ホール
2Fは地域の台所になる商店街や子どもの遊べる広場をつくり子どもから大人まで楽しめる環境で地元の特産物に出会える観光スポット。



3 繋がる学校へ 子どもから高齢者 障がい者や外国人が共に学ぶダイバーシティ学校

小、中学校、特別支援学校、幼稚園、日本語学校、技術者育成施設などの教育機関やデイサービスなどの介護施設が統合された多種多様な考えの集まる場所



現在大子町でも少子化が進み教育を受ける人口が減少する中でもSDGsの達成された社会では、日本人、外国人、障がい者だけでなく高齢者やさらに小さい子供たちと同じ場所で生活をするようになることを考えました。

歴史や伝統を守っていくためには異なる年代、人種の人たちと交流して繋いでいくことが必要だと考えました。



超情報化社会へ
現在の生活でも非常に多くの情報が世界中に溢れるなかSDGsの達成された未来では、グローバル化が進みかつスマート社会になっていくので教育環境も変化が必要だと考えました。

交流が大切なのは小中学生だけでなく、高齢者も同様です。高齢者や子どもたちの交流で元気になるだけでなく、言い伝えや伝統の伝承者として、後世に繋いでいくことが文化、技術を守ることにつながると考えました。

私はこれらの建築物で文化、技術を繋ぎ継いでいく「大子町」をフックにすることができると考えています。しかし、現在の状態では実現が難しいです。今回の課題にもある「SDGsの先にあるわたしたちの社会」というSDGsが達成した世界での建築物を考えるためには多様な人々の必要に応じて意見を聞き通して自分もまだ知らない事も多く世界もまだ未知な領域には遠くは入り人間のさらなる発展のためにSDGsの必要性を再認識することと日本でも多くの問題があり、解決のためには活気のある環境を創るために建築によって地方の過疎化を盛り上げていくことが必要だと感じました。